

石黒直樹

春日井市長

対談

春日井青年会議所 第57代理事長

高柳太志

昭和63年9月8日生(36歳)
株式会社高柳組 取締役
建設業における元請けとして、建築の施工管理
平成30年春日井青年会議所入会
令和7年度理事長

昭和38年12月29日生(62歳)
中部大学客員教授
昭和62年4月 春日井市に奉職
産業部長、建設部長、企画政策課長を経て
令和4年5月春日井市長に就任



■春日井市の魅力と課題について

高柳理事長(春日井青年会議所)...
まずは、市長として4年目となりますが、他の市と比べて春日井市の魅力についてどう感じていらっしゃいますか？

石黒市長(春日井市)...
春日井市の魅力は、まちと緑のバランスがちょうどよいところにあると思います。また、名古屋市内に隣接しているという地の利も大きなアドバンテージです。

JR中央線が東西に、名鉄線が南北に走っていて、東名高速や中央道、国道なども含めて交通の利便性が非常に高いです。

昭和18年に合併後、昭和40年代にはニュータウンの開発や都市区画整理事業が進み住宅都市として発展してきました。暮らしやすさという意味でも、春日井市はとても魅力ある都市だと感じています。

高柳理事長...
ありがとうございます。では、市の課題としてはどのようなことが見えてきましたか？

石黒市長...
まちと緑のバランスは良いのですが、まちのエリアは今でも人口が増えている一方で緑の多いエリアではやや人口が減っており、地域によって高齢化の進み具合も異なります。同じ春日井市でも地域ごとに特性があり、そのバランスをどう取っていくかが課題の一つだと感じています。難しいですが、それだけにやりがいも感じています。それと先ほどの人口減少について少し補足させていただきます。

日本全体で見ると、出生数は44年連続で減少しています。春日井市も例外ではなく人口減少が続いていますが、この1年はその減少の角度が少し緩やかになりました。これは、春日井市の「暮らしやすさ」が要因の一つだと考えています。

「人口消滅都市」という言葉を聞いたことがあるかもしれませんが、若年女性(20〜39歳)の人口が2020年〜2050年の30年間で50%以上減るとそう呼ばれます。全国1700以上ある自治体のうち4割が該当すると言われています。

その中で春日井市は、若年女性の減少率が愛知県内の30万人以上の都市の中でも最も低いとされています。

高柳理事長...
転入と転出のバランスや、出生率などはどのように見られていますか？

石黒市長...
10年以上前までは年間3,000人ほどの出生がありました。今は約2,000人に減っています。つまり、10年前と比べると毎年人口が1,000人ずつ減っている計算です。

転入・転出についてはほぼ横ばいなので、人口減少は主に出生数の減少によるものだと分析しています。



■子どもたちが健やかに育つ環境づくりと

市長が考える理想の春日井像について
高柳理事長...
今年度の広報誌では、20代・30代の子育て世代の方をターゲットとしています。そこで、市長が考える「子どもたちが健やかに育つ環境づくり」、理想の春日井像についてお聞かせください。

石黒市長...
その通りだと思います。引き続き、春日井市の魅力を発信しながら、課題にも丁寧に向き合っていきたいと考えています。

高柳理事長...
理士長から「こども」というキーワードをいただきましたが、令和6年度に「こどもまんなかプラン」を策定しました。これは、まちづくりにおいてこどもを「はしっこ」としては、まんなか、「まんなか」に位置付けて考えるという方針です。現在は、「こどもの権利条例」という大人のものと思われがちですが、「権利」という大人のものと思われがちですが、こどもも当然権利があるという視点から、令和7年度にはその推進に力を入れていきます。

高柳理事長...
「こどもをまんなかに位置付けて考える」とのことですが、春日井市では具体的にどのような取り組みをされているのでしょうか？

石黒市長...
取組みのポイントは大きく3つあります。1つ目は「居場所と支援体制の確保」。こどもにとって安心できる環境をつくること、そして、そこに大人が集まり、一緒にどう暮らしていくかを考えることが大切です。

2つ目は「こどもへの情報の伝達」。大人だけでなく、こどもにも必要な情報が適切に届く仕組みをつくること。

3つ目は「こどもの経済的負担の軽減」。これは大人だけの問題ではなく、こども自身にも影響がある部分です。

この3つの視点から、こどもたちが健やかに暮らせる春日井市を目指しています。

高柳理事長...
ありがとうございます。私たち青年会議所も、全国に670の拠点がありますが、そのネットワークを活用しながら社会課題の解決に取り組んでいます。

■市長になった時と今を比べてみて、当初は思ってみなかった市長の難しさ

高柳理事長...
ありがとうございます。私たちが青年会議所でも、全国に670の拠点がありますが、そのネットワークを活用しながら社会課題の解決に取り組んでいます。

春日井JCIにも85名の会員があり、近年はサービス業やデジタル分野のメンバーも増え、昨年AJを活躍した授業も行い、若い世代や親子世代に向けた新しい学びの形も模索しています。

石黒市長...
私たちの共通の願いは、こどもが健やかに、そして伸び伸びと育っていくことです。そのために、私たち大人が環境を整えていく。それが、春日井市の理想のかたちだと思っています。

高柳理事長...
市長に限らずですが、1日は24時間しかありません。その中でどう時間を活用するかというのは、日々強く感じています。

毎日判断と決断の連続で、「間違えました、ごめんなさい」では済まない立場です。慎重に判断し、「スピード感を持って決断し、良いところは伸ばす、変えるべきところは変える」という意識で取り組んでいます。

楽しさで言うと、市民の皆さんや事業者の方々と直接関わり、思いを共有して未来を語り、まちづくりを一緒に進められることは本当に大きな喜びです。また、日々のスケジュールが非常に密で、平日は朝から晩まで会議や打ち合わせ、来客対応などが続きます。土日でも地域行事や団体行事に参加しており、3年間が本当にあつという間でした。

春日井市としてもこれまで様々な防災対策を講じてこられたかと思いますが、今後の新たな取り組みや構想があれば教えてください。

石黒市長...
まずは振り返りになりますが、令和6年能登半島地震の際は、発生当日の夕方には春日井市からも緊急消防援助隊が現地向かいました。現在も職員が現地に滞在し、復興支援を続けています。

また、昨年8月には南海トラフ地震臨時情報も出され、防災意識が一層高まったと感じています。

最近の取り組みとしては、市役所敷地内に新たな防災倉庫を整備することを決め、着手を始めました。これにより、防災備品を一元管理し、災害時には迅速に各所へ届けられる体制を強化します。あわせて、物資集配拠点となる総合体育館にも、大型トラックが横付けできるように改修も進めています。

高柳理事長...
ありがとうございます。では、逆に難しさを感じる点はいかがでしょうか？

石黒市長...
私黒市長...
退職して市長になりました。その経験は十分に活かせていると思います。

ただ、行政の仕事は非常に幅広い。子育て、教育、福祉、まちづくり、産業振興など、どれも重要で、そこにはヒト・モノ・カネが必要で、春日井市には職員・臨時職員含めて4,000人が働いていますが、人にも予算にも限りがある中で、やるべきことは非常に多い。物価高騰など外部環境の変化もあり、限られた資源でどうまちづくりを進めていくかは非常に難しい課題です。

高柳理事長...
そういう判断や決断の際、優先順位はどのようにつけられているのでしょうか？

石黒市長...
まず何よりも「安全・安心」が最優先だと思います。

今の世界情勢を見ると、戦争や紛争が起きている国に住みたいとは思いません。春日井市に住みたい、暮らしたいと思っただけには、安全であることが大前提です。その上で、防災・防災対策に力を入れ、さらに子育て、教育、福祉、産業振興といった分野に取り組んでいく必要があると考えています。

高柳理事長...
本年度、春日井青年会議所では防災に関する委員会を設置しました。背景としては、令和6年元日に発生した能登半島地震や、南海トラフ地震への備えをきっかけとし、「自助」と「共助」の観点から、市民の皆さまへの啓発活動を進めております。

春日井市としてもこれまで様々な防災対策を講じてこられたかと思いますが、今後の新たな取り組みや構想があれば教えてください。

石黒市長...
まずは振り返りになりますが、令和6年能登半島地震の際は、発生当日の夕方には春日井市からも緊急消防援助隊が現地向かいました。現在も職員が現地に滞在し、復興支援を続けています。

また、昨年8月には南海トラフ地震臨時情報も出され、防災意識が一層高まったと感じています。

最近の取り組みとしては、市役所敷地内に新たな防災倉庫を整備することを決め、着手を始めました。これにより、防災備品を一元管理し、災害時には迅速に各所へ届けられる体制を強化します。あわせて、物資集配拠点となる総合体育館にも、大型トラックが横付けできるように改修も進めています。

高柳理事長...
ありがとうございます。では、逆に難しさを感じる点はいかがでしょうか？

石黒市長...
私黒市長...
退職して市長になりました。その経験は十分に活かせていると思います。

高柳理事長.. 総合体育館が災害時の物資集配の中核となるのですね。

石黒市長.. はい、災害時には物資が集まる主要拠点になります。そのため、ハード面の整備は非常に重要です。加えて、梅雨や台風シーズンを前に土のうの事前配布を行うなど、住民による「備え」を支援する取り組みも続けています。

また、河川の水位を監視するカメラの設置など、リアルタイムでの情報把握も進めています。さらに、ハードだけでなく、ソフト面の防災教育やハザードマップの活用にも力を入れており、市民一人ひとりが「自分の地域の危険性」や「避難経路」を把握できるよう努めています。

高柳理事長.. 私たち春日井青年会議所でも、能登半島地震の際に、尾張東エリアの仲間と協力して物資を集め、岐阜経由で現地へ届ける支援活動を行いました。

実際に災害が起きたとき、「誰かが支援する」体制がとても大切だと感じています。

石黒市長.. 本当にその通りですね。「自助」「共助」「公助」のうち、まずは日頃の備えの「自助」と、地域のつながりの「共助」が重要です。

青年会議所の皆さんのように、日常から地域と関わり、防災の啓発活動に取り組んでいただいているのは、とても心強いです。

高柳理事長.. 今後、防災ブースの出展などを通じて、地域の皆さまとの交流を深め、自助・共助の意識を高める活動を続けていきたいと思います。引き続き、よろしくお願ひいたします。

春日井市におけるスポーツ振興の現状と今後の構想について

高柳理事長.. 本年度、春日井青年会議所ではスポーツに関する委員会を設置し、地域市民の皆さまにスポーツを推進する活動を行っております。

春日井市では、「春日井市スポーツ振興基本方針」に基づき、生涯スポーツ社会の実現を目指していますが、今後のスポーツイベントや競技施設の整備など、発展させたい構想があれば教えてください。

石黒市長..

春日井市内には、世界大会や全国大会で活躍する選手が数多くいます。プロ野球選手や大相撲力士など、驚くほどの逸材が育ち、市内にはそうした才能を育むスポーツの土壌があると実感しています。全国規模の大会も多く開催されていて、たとえば高校や女子学生の剣道大会、そしてプロ



卓球の全国リーグなども総合体育館で行われています。最近では照明や演出にも工夫が加えられ、スポーツイベントとしても非常に魅力的になってきています。

市としては今後もそうした大会を積極的に誘致し、観戦だけでなく市民の皆さんにも参加してもらう機会を増やしていきたいと考えています。

高柳理事長.. 親子でのスポーツ競技や陸上競技会など、幅広い世代が楽しめる場があるのは素晴らしいですね。

石黒市長.. はい。また、春日井市スポーツ・ふれあい財団と連携し、昨年度は様々なスポーツ体験イベントも実施しました。今後もそうした機会を通じて、より多くの方にスポーツに親しんでいただきたかと思っています。

さらに施設面では、2026年のアジア競技大会でハンドボール競技の会場となる総合体育館の改修を進めており、アジア大会仕様へのアップグレードを行っています。また、朝宮公園のスポーツ・春日井（陸上競技場）についても、5年に1度の第三種公認継続検定があるため、公式記録認定に必要な改修工事を予定しています。

高柳理事長.. 今後の大会運営や競技力の強化にもつながる動きですね。ちなみに、アジア大会でのボランティア募集についてはいかがでしょうか。

石黒市長.. 春日井市では、ハンドボール競技とゴルフ競技（春日井全トリックラフ）を開催します。春日井市全体で800名のボランティアを集める目標があり、現在は約400名ほどが集まっている状況です。

高柳理事長.. 当会にも85名のメンバーが在籍していますので、大会の開催に向けて協力させていただきます。

石黒市長.. ありがとうございます。引き続き、一緒にスポーツを通じて春日井市の魅力を広げていきたいと思います。

春日井市と春日井青年会議所のこれからの協働の可能性について

高柳理事長.. これまでも「わいわいカーニバル」や「春日井まつり」といった事業で、春日井市と春日井青年会議所が協働させていただき、さらに市と連携して展開しているような分野や事業があれば、ぜひお聞かせいただけます。

石黒市長..

3つの柱があると考えています。1つ目は、先ほど理事長もおっしゃった防災の関係ですね。防災啓発イベントは同じベクトルで一緒に取り組めるのではないかと考えています。防災にはハードとソフトの両面がありますが、特にソフト面では、安全安心フェアを始めとする防災教育や啓発イベントなどを行っていただくため、これらは共に進めるのではないかと考えています。

それを通して地域全体の防災力を高めていける。良い取り組みになると思っています。2つ目はスポーツ分野です。春日井市ではさまざまなスポーツフェスティバルや大会を行っておりますが、市民の健康やスポーツ能力の向上、そして「生涯スポーツ」の観点からも、春日井JCCの皆さんと一緒にできることが多くあると思います。

3つ目はまちづくり。春日井市の未来をつくるというビジョンは、以前から春日井JCCさんも持っていました。たとえば、ワークシヨップをこども向けに開催したり、場合によっては高齢者と一緒

に町について語り合う場を設けたりするなど、世代を超えて考えるまちづくりも協働できる分野です。また、商店街の活性化も含め、地域の皆さんと連携した事業はこれからますます大事になっていくと感じています。

高柳理事長.. ありがとうございます。今年の事業では「地域シナジーを起そう」というテーマの委員会を設けました。

これまで私たちは基本的に自前で事業を行っていましたが、他の団体と協働することで、考え方や広報手法、ネットワーキングなど、多くを学べると思ひ、新たな取り組みに挑戦しています。具体的には、国際交流団体さんや書道団体さんと一緒に、外国人の方々に書道を体験してもらおう国際交流の場をつくる事業を進めています。私たちだけでは限界もありま

すので、これからも市と協働できる機会があれば、ぜひ積極的に取り組んでいきたいと考えています。今後ともよろしくお願ひいたします。

石黒市長..

ちょうど今年には2005年の愛知万博から20周年ということで、「愛知万博20周年記念事業」も開催されています。国際交流の面でも、春日井市でもさまざまな展開をしていただければ嬉しいですね。

春日井JCCの年齢層である20代30代の若者に期待することについて

高柳理事長.. 春日井JCCの年齢層である20代、30代の若者に期待することはありますでしょうか。

石黒市長..

20代、30代という時代、私は「人生100年時代」というのをキーワードにしていますので、皆さんはあと70年、80年と長く生きていく世代です。「どう生きるか」ただ生きるだけでなく、「どう生きるか」が大事で、それが「いきがい」だと思っています。

令和7年度の春日井市のまちづくりのテーマは「ウェルビーイングの向上」です。ウェルビーイングというのは、もっと健康に、もっと心豊かに、そして安全安心に暮らせる状態を続けていくこと、ということ。こうしたまちづくりを、20代、30代の皆さんと一緒に進めていきたいと思っています。私は皆さんに対して、特に3つのことを期待しています。

1つ目は、「地域の活性化への貢献」。皆さんの柔軟な発想、行動力はイベントや地域活動などに活かします。そういった活動を通して、地域の魅力を高め、暮らしやすいまちづくりにつながると考えています。

2つ目は、「新しい価値観」。若い視点を大切にしたい。今はデジタル世代ですから、スマホやICT、AIなどを使って、新しい発想での取り組みをぜひ考えてもらいたいと思います。3つ目は、「コミュニケーションの強化」。

今は誰もが情報が発信できる時代。正しい情報だけでなく、誤った情報も発信されることがあるので、受け手のリテラシーや発信者のモラルが必要になります。そうした情報モラルを次の世代に伝える役割も担ってほしいと思います。

こどもたちにスマホの正しい使い方を教えたり、誤った情報を見極める力を育てたり、大人として果たすべき責任も大きいので、未来を担う皆さんに、ぜひこのような視点で地域を支えていただければと思います。

最後に「春日井の未来へ、GONEXT」の読者である市民の皆さんへメッセージをお願いします。

高柳理事長..

では、最後になりましたけれども、最後に「春日井の未来へ - GONEXT -」の読者である市民の皆さまへ、一言メッセージをお願いします。

石黒市長..

ウェルビーイングの向上や、人生100年時代、いきがいということ 키워ワードに今までいろいろとお話をさせていただきましたが、「春日井市が好き」という思いを、もっとも深く深めていただきたいと思います。

そして「春日井市が好き」ということを、ぜひみわりの人にも発信していただきたいと思います。不満とか不便、不足といったものは、このまちにもあると思いますが、今自分が住んでいるところ、働いているこのまちの「好き」なところ、をどんどん発信して、お互いに高め合っていく。

そんなことを皆さんにもしていただきたいと思います。市としてもそうした姿勢でしっかり取り組んでいきたいと思っています。



フェンシングエペ 女子五輪選手 佐藤希望氏 インタビュー 佐藤希望

昭和61年7月3日(39歳)

大垣共立銀行所属

2010年11月アジア大会にて銀メダル獲得

2020年東京オリンピックにて女子エペ個人にて出場



春日井でフェンシングのコーチをされるきっかけは？

春日井とのご縁は、YouTube「東海オンエア」さんがKLフェンシングアカデミーで撮影を行ったことがきっかけでした。その際にクラブの代表の方と出会い、私がちょうど日本代表を引退するタイミングだったこともあり、「この春日井でエペのクラスを新たに開設したい」とお声がけいただきました。

もともと春日井にはフルールのクラスはありましたが、私が専門とするエペはまだなかったため、新たに指導の場としてこの地に関わることになりました。地域にフェンシングの魅力を広められる貴重な機会に恵まれたことを、とても嬉しく思っています。

フェンシングを始めたきっかけと、続けてこられた原動力は？

フェンシングを始めたのは高校からなんです。中学校の教室に「フェンシング体験しませんか？」っていうチラシが貼ってあって、面白そうだなと思って友達と一緒に参加したのが最初でした。実は剣道をやってたこともあって、どこか似た部分もあったんですよね。体験したその日に、「これ、楽しい！」って感じて、気づいたのめり込んでいました。

私が専門にしている「エペ」という種目は、フェンシングの中でも全身が得点対象で、優先権とか難しいルールがない分、初めて見る人にもわかりやすいんです。ラップがつけば得点になる、シンプルなルールが魅力です。続けてこられたのは、やっぱり「自分で決めた目標だから、簡単には諦めたくない」という気持ちが大きかったですね。そして何より、応援してくれる人の存在がすごく大きいです。家族、仲間、そして地域の皆さんの支え

が、今も私の力になっています。

子育てをしながら競技に挑む大変さなどありましたか？

本当に大変でした。第一子を出産してからの1年間は、フェンシングから完全に離れて、ただの『お母さん』として子育てに専念していました。当時はもう競技に戻るなんて全然

考えていなかったです。

でも、その後に東京のナショナルトレーニングセンター（NTC）に託児所ができたことを知って、「これならもう一度挑戦できるかも」って思ったんです。フェンシングができる環境に、子どもを預けられる場所がある。そこが復帰の大きなきっかけでした。

ただ、復帰直後は体が全然動かなくて…。感覚はあるけど、思ったように剣が届かない。「あれ？私ってこんなに動けなかったっけ？」ってショックでした。しかも子どもがいると練習時間も限られてくる。時間との戦いでした。

でも逆に、子どもがいたからこそオンオフがはっきりして、『今やるべきこと』に集中できるようになった気がします。短い時間でも質の高い練習をするようになったし、考え方や向き合い方も変わりましたね。



オリンピックや全日本に挑戦しての感想や、よかったことはありますか？

やっぱり、自分が勝って嬉しいという気持ちはもちろんあるんですけど…何よりも、「応援してくれる人たちの存在」が大きかったですね。

大会のたびに「頑張ってるね！」「応援してるよ！」って声をかけてもらえて、それが本当に励みになってました。福井の地元に戻ったときなんか、道ですれ違った人に声をかけてもらえることがあって、『私一人で戦ってるんじゃないんだ』って感じられてすごく心強かったです。特に印象に残っているのが、子どもに「ママ、



試合がんばってね！”って言われたときもう、それだけで『絶対に負けたくない！』って気持ちになりました（笑）。それから、フェンシングってまだまだマインナー競技なので、オリンピックや全日本で取り上げてもらえることで少しでも認知が広がったことも嬉しかったです。『フェンシングってこういう競技なんだ』って興味を持ってもらえるきっかけになったと思います。



子どもたちにはフェンシングを通してどう成長してほしいですか？

フェンシングって、実は“礼儀”がすごく大事な競技なんです。試合の前には必ず挨拶をして、勝っても負けても握手で終わる。それがルールとしても決まっています。挨拶を怠るとペナルティになるほどなんです。だから、私が子どもたちにまず伝えたいのは、『相手を尊重する心』や『感謝の気持ち』なんですよね。剣を持つ競技だからこそ、礼節やルールを守る姿勢が大切に

なりますし、日常生活にもきつとつながっていくと思います。

それから、フェンシングは個人競技なので、“自分と向き合う力”も自然と育まれます。一人で試合に立つプレッシャーの中で、自分で考えて判断して動く。その積み重ねが、子どもたちの成長につながると思います。もちろん、強くなってくれたら嬉しいけど、それ以上に“人として強くなってほしい”という思いのほうが大きいですね。

夢や目標に向かって進む中で、特に意識していることは何ですか？

一番意識しているのは、“諦めないこと”ですね。たとえ目標がすぐには叶わなくても、コツコツ続けていれば必ず前に進めるって信じています。私は、何か目標を決めたら、それを“言葉にして口に出す”ようにしています。そうすると、自分の中に『責任感』が芽生えるというか、簡単には投げ出せなくなるんですよね。もちろん、途中でうまくいかないこともあります。でもそんなときは、“今できることをひとつずつやる”。それを大事にして、焦らずに歩みを進めるようにしています。

夢や目標って、自分の力だけで進むものじゃなくて、支えてくれる人や環境のおかげでもあるので、“感謝を忘れないで努力する”ことも、ずっと意識しています。

今後挑戦したいことや、見据えているビジョンがあれば教えてください

私自身の目標としては、まず、全日本選手権で“史上最多100回目の優勝”を目指しています。9回目までは達成していて、あと1勝で前人未踏の記録なんです。選手としての練習時間は限られています。が、“まだやれる”という気持ちで挑戦を続けています。

そしてもう一つは、指導者としてのビジョンです。今、春日井で子どもたちにフェンシングを教えています。が、いつかこの中から『日本代表』や『オリンピック選手』が出てくれたら、それが私の夢です。フェンシングの技術だけでなく、人としての土台もしっかり育てていけるような環境をつくっていききたいですね。この場所で育って良かった』と思ってもらえるような指導を、これからも続けていきたいです。



同じ春日井で育つ子どもたちや若い世代に伝えたいメッセージはありますか？

まずは、“元気に挨拶をすること”、それだけでもすごく大事なことだと思っています。礼儀や感謝の気持ちって、スポーツに限らず、いろんな人との関わりの中でとても大切なものなので、ぜひ日常の中でも大事にしてほしいです。

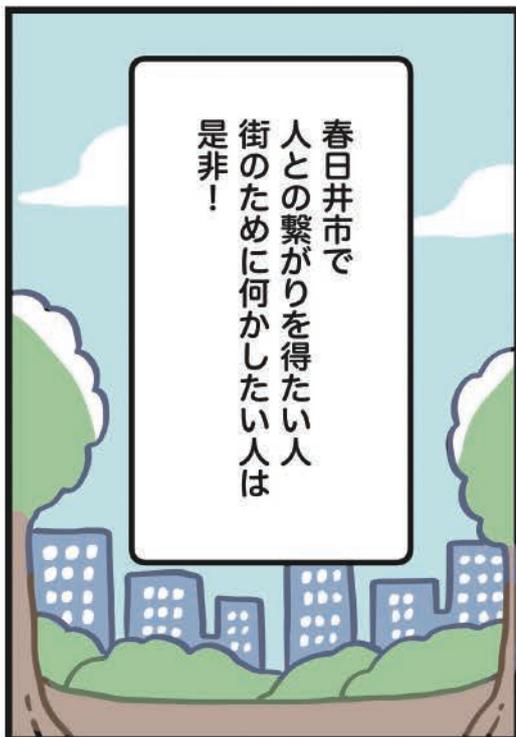
それから、“夢”って、最初からはつきり持っている子のほうが少ないと思うんです。私も、子どもの頃は“アイス10段食べてみたい！”とかそんな夢でした（笑）。でも、いろんな人と出会ったり、経験を積んだりしていく中で、少しずつ“やってみよう”が見えてくる。だから焦らなくて大丈夫。今夢がなくても、これからきつと見つかります。

そして、大人になってからだって夢を持つていいし、挑戦することに遅すぎるなんてことはないと思います。子どもも大人も、自分のペースで“なりたい自分”を目指して、前に進んでいってほしいなと思います。



知ってる？春日井JC!





どんなことをやっているかは次のページで！

2月度例会

**「まずはやってみよう！」
からはじめるSTEAM教育**



STEAM教育の講師として学習環境デザイナーの山内佑輔氏をお呼びし、馴染みの薄いSTEAM教育とは何か、またその教育の重要性を認識してもらおうと共に、それを広めてもらう目的に開催しました。

2025年2月16日

公益社団法人春日井青年会議所
2025年度 スローガン

**燃やそう情熱
高めよう志
みんなで築く
春日井の未来**

4月度例会

**想いを共感させよう！
フルーツサンド行進曲！**



ダイワスーパーの代表大山様を講師としてお呼びし、自社の商品や価値のブランディング力を学ぶことを目的として開催しました。

2025年4月17日

春日井JCのことを
もっと知るなら！

**LINE
公式アカウント
@kasugaijc**



6月度例会

入会認承証書伝達式



春日井JCは1月から6月まで拡大活動（仲間づくり）を行っております。本年度は「1+STEP」をテーマに活動し、OB諸兄姉や多くの関係者の皆様のご協力もあり、「45名」の新入会員が仲間に加わりました。個性豊かでエネルギッシュな新入会員たちがこれからの春日井をもっともっと盛り上げてくれること間違いなしです。JC活動をさらに加速させていただきます！これからもよろしくお願いいたします。

2025年6月30日

5月度例会

第27回わいわい スーパードッジボール大会



落合公園で行われた「わいわいカーニバル」内で小学生を対象にドッジの試合を行いました。多くの小学生が参加し白熱する試合を繰り広げました。会場に応援席を設置し多くの方に子ども達に声援を送っていただき、とても盛り上がるドッジボール大会となりました。

2025年5月11日

7月度例会

皆で楽しもう！ 春日井の伝統文化「書」の魅力



地域の皆さんと一緒に楽しむことができた「書」の例会。特に子どもたちが真剣な表情で筆を持ち、書き上げたあとの笑顔は最高でした。「楽しかった！」「またやりたい！」という声もたくさん届いています。これからも春日井JCは、まちの未来を担う子どもたちの笑顔のために活動していきます。

2025年7月5日

5月事業

第35回 わんぱく相撲春日井場所



全国大会までの第一歩、わんぱく相撲春日井場所を開催しました。自律心を育むテーマとしてポジアドカードを企画し、ただ相撲大会に参加するだけでなく、目標を持って取り組むと共に、多くの子ども達が自ら考え、行動する機会を設けてもらうべく設営をしました。結果として、多くの子どもにも取り組んでもらうことができました。

2025年5月25日

10月

宵祭り ハルフェスユナイト ～響け、キモチのビート～

日時：10月18日(土) 18:00～20:00
場所：春日井市役所文化フォーラム前メインステージ

若い世代を中心に幅広い市民に向けて、音楽を通じて春日井JCの活動を発信する宵祭りを開催します。30歳以下のバンドによるライブコンテストを実施し、観客投票とゲスト審査員により2組を表彰します。特別ゲストとしてシンガーのまりり氏によるライブ、さらにガチャリックスピンのFチヨッパーKOGA氏らによる審査員参加も予定。観客参加型のSNS連動企画やお菓子撒きもあり、会場一体となって盛り上がる音楽フェス形式の事業です。



要救助者を救え！ 走れ！強い春日井防災まつり

日時：10月18日(土)
10:00～15:00 (最終受付 14:45)

場所：春日井市役所庁舎西側道路
市民を対象に、災害時の初動対応や共助の大切さを体験できる防災イベントを開催します。救援物資を届ける「バギーレース」簡易ポンチヨを作るクラフト体験 防災知識を学ぶクイズや、要救助者を救うシミュレーション型「hand in handアスレチック」など 楽しみながら防災の知識と行動力を養うことを目的とした、春日井まつりと連動した事業です。



夢はありったけの情熱から ～THE FIRST TAKE～

日時：11月2日(日)10:00～15:00
(第一部、第二部9:30受付開始、
第三部、第四部11:30受付開始)

場所：勝川駅前商店街
小学生を対象に、スケートボード・BMX・パルクールなどのアーバンスポーツを体験できるイベントを開催します。プロ選手によるパフォーマンスや、スケボーが当たるじゃんけん大会、さらに商店街を巡るスポーツスタンプラリーやスラックライン体験も同時に実施し、スポーツを通じたまちのつながりと熱気を体感できる一日となります



11月

Recommended restaurants♪

春日井JCおすすめのお店をご紹介します！



鉄板バル エテルノ

南欧の趣たっぷりのお洒落な隠れ家バル
ソムリエ厳選ワインを片手に飛騨牛を
はじめとした魅惑の鉄板焼きを堪能♪

住 春日井市旭町1-6 まま勝川1F

営 17:00~24:00

休 火曜日



天ぷらやじま。勝川店

厳選した素材・油・塩を使った天ぷらを
リーズナブルで皆様にご提供する親しみ
やすいお店です♪

住 春日井市旭町1丁目5-4

営 【火~木】 11:30~14:00
17:00~翌1:00
【金・土】 11:30~14:00
17:00~翌3:00

休 月曜日



めん処にしむら

春日井市にある創業60年を超えるめん処
合盛（うどん、中華そば）と味噌おでん
のお店！

住 春日井市南下原町字3番割481-2

営 11:00~18:00

休 水曜日



串揚げ 和や

串揚げ和やは春日井駅前にある
安くて美味しい串揚げ屋です！

住 春日井市中央通1丁目64-2
中央通1-64-2クイール中央通2F

営 17:00~24:00

休 不定休



Café noir

お酒も楽しめる落ち着いたカフェ♪

住 春日井市六軒屋町1丁目47
J&Jビル 1A

営 11:30~24:00

休 火曜日



bread&cafe Flave

春日井の朝宮公園のそばにあるカフェ
厳選素材のせいろ料理、職人が作るパン
と相性抜群のコーヒーがおすすめ♪

住 春日井市 高山町二丁目 33 番 1

営 7:00~19:00

休 第一・第三水曜日

抽選で9名様に
ギフトカード
プレゼント！



アンケート（右QRコードから）に
お答えいただいた方の中から、
抽選で9名の方にAmazonギフト
1,000円分をプレゼント♪
詳しくはQRコードをチェック！



JCI
Kasugai

新入会員募集中!!

（公社）春日井青年会議所は志高き品格ある青年男女を募集しております。

〒486-0844 春日井市烏居松町 5-45 春日井商工会議所内
TEL : 0568-81-8480 FAX : 0568-84-2299 <https://www.kasugai-jc.com>



LINE
公式アカウント
@kasugaijc



Instagram
JCI.KASUGAI
Follow me!